

# 早期臨床実習を終えて

## 早期臨床実習を終えて

歯学科2年 森下 綾



私たちは太陽の村、ココ二一にいがた白岩の里という知的障害者や自閉症の方のための施設を見学させていただきました。太陽の村は自閉症の子をもつ親によって親が亡き後、家庭に代わる場所として設立されたと聞きました。また重度の自閉症の方を支援することに特化した施設であり、普通の社会的生活を送ることが困難であるため、家族と離れて生活している方がほとんどだそうです。そのため季節ごとに様々なイベントが催され、離れて暮らす家族だけでなく、地域住民との親睦もはかられているそうです。また、自閉症の方が変化に弱いということを知りました。健常者が気にもとめないことに関しても強いこだわりがあり、一人ひとりにあった細かい配慮がなければ入所している方の精神的健康を守ることが出来ません。さまざまところで職員の方の努力を垣間見ることが出来ました。また太陽の村の住人の方は積極的に私達とコミュニケーションをとろうとして下さったため、いろいろな方とお話することが出来ました。その中でも生年月日など特定の日を言うと、その日が何曜日であるが言うことが出来るというサヴァン症候群の方とお話する機会があり嬉しかったです。

ココ二一にいがた白岩の里は年齢や障害の重度によって児童部、成人部、高齢期更正部、重複更正部、社会復帰部に分けられていました。私たちは成人部、社会復帰部を見学しました。成人部の生活棟は入所者が少しでも過ごしやすいように様々な工夫がなされていました。適切な室温を保つことはもちろん、壁や扉に極力装飾品は付けない、

一日のスケジュールを絵で表すなどの職員の方の気配りが感じられました。社会復帰部は成人部と障害の重度が全く異なっていました。ここでは地域での生活や社会参加を目指して就労や生活面での訓練が行われていました。洗濯や清掃などひとり暮らしの疑似体験が行われていたり、障害の悪化や二次障害の防止のための作業ではなく、生活に直結する仕事をされていました。健常者とはほとんど変わらない社会的な生活を送っておられると思いました。

小学校のときは同じ学年に支援学級に通っている自閉症の友人がいたり、中学校のときも支援学級に通っている身体に障害をもつ友人がいたりしました。高校に入学してからは障害をもつ方と関わる機会が全くありませんでしたが、今回知的障害者や自閉症の方とお話し出来た上に、どのような生活を送っておられるのを知ることが出来て良かったです。

## 早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 三善 香織



私たちは、後期の初めに早期臨床実習として、寺泊にある「ココ二一にいがた白岩の里」という所に行きました。ここは、新潟県知的障害者総合援護施設で、ノーマライゼーションを基本理念としています。敷地面積が東京ドーム5.2個分という広大な土地に、知的障害を持つ多くの方が暮らしています。また、ココ二一にいがた白岩の里は主に児童部、成人部、高齢期更生部、重複更生部、社会復帰部の5つの部署で構成されています。その中でも、私たちのグループは成人部と社会復帰部の2つの部署を見学させていただきました。

した。今回は、そのことについて書きたいと思います。

最初は成人部を見学しました。成人部は、重度の知的障害を持つ方が3つの寮に分かれて、それぞれ暮らしています。実際に寮の中を見学してみると、入口や窓、棚には全て鍵がついていたり、テレビなどの物は全て触れられないようになっていたことに少し驚きました。しかし、職員さんのお話を聞いて、これは利用者さんの安全面を考えると、やむを得ないことであると納得できました。また利用者の方は職員さんと遊んでいたり、寝ていたりなど思い思いに生活していたので私が想像していたより穏やかで明るい雰囲気でした。

次に、社会復帰部を見学しました。社会復帰部は作業訓練を生活の柱としており、一定期間訓練（大体2～3年）を受けて、地域で生活できるようにしている部署です。今回私たちは、その作業訓練の様子を見学させていただきました。そこで、利用者さんは金属の部品を作っていました。一人で出来る人は一人で黙々と作業を行い、また一人で言うことが難しい方でも職員さんの援助を受けて一生懸命に作業を行っていました。そして、私たちが見学をしていると利用者さんの方から私た

ちに、おじぎや挨拶をしてきてくれたことがとても印象的でした。

今回、成人部と社会復帰部の2つの部署を見学して、障害の度合いが幅広いということを知りました。なので、将来仕事などで障害者の方と接する時は、まず障害の度合いや傾向、性格などをコミュニケーションをとりながら理解することが必要であると感じました。そして、理解したうえで、自立できるようにサポートすることが大事であると思いました。実習に行く前、私は「施設」というだけで、勝手に漠然と暗いイメージを持っていました。しかし、コロニーにいがた白岩の里は利用者さんが暮らしやすく、自立できるような環境・システムが整っており、また障害者の方々が生き生きと暮らしていて、全く私のイメージとは違っていました。ここに書いたこと以外にも、まだ多くのことを今回の実習で学ぶことができました。そういった意味でも、本当に実習に行くことができてよかったですと思います。また、学んだことに満足せずに、これからの実習や仕事において、今日のことを忘れずに活かしていきたいと思いました。



## 大学生活を振り返って

口腔生命福祉学科3年 佐藤彩加

年次が上がるにつれて忙しくなることに学生だけでなく先生方からも定評のあるこの口腔生命福祉学科に入学し、早いもので4年目を迎えることとなります。少人数ながら1人1人の個性の強いクラスで毎日学校に部活、サークル、アルバイトと忙しい中でお互いに支えあいながら生活していることを臨床実習が始まってからは特に強く実感しています。私は部活やサークルに所属していないのですが、毎日一緒に過ごしている友人が新大祭のステージ上で活躍している姿を見て、尊敬すると同時に羨ましくも感じました。大学生活ではある程度自由に自分でもいろいろなことを選択でき、自分の世界をどんどん広げることできるのではないかと思います。残り少ない大学生活ですが、悔いのないように今しかできないことに積極的に挑戦していきたいです。

